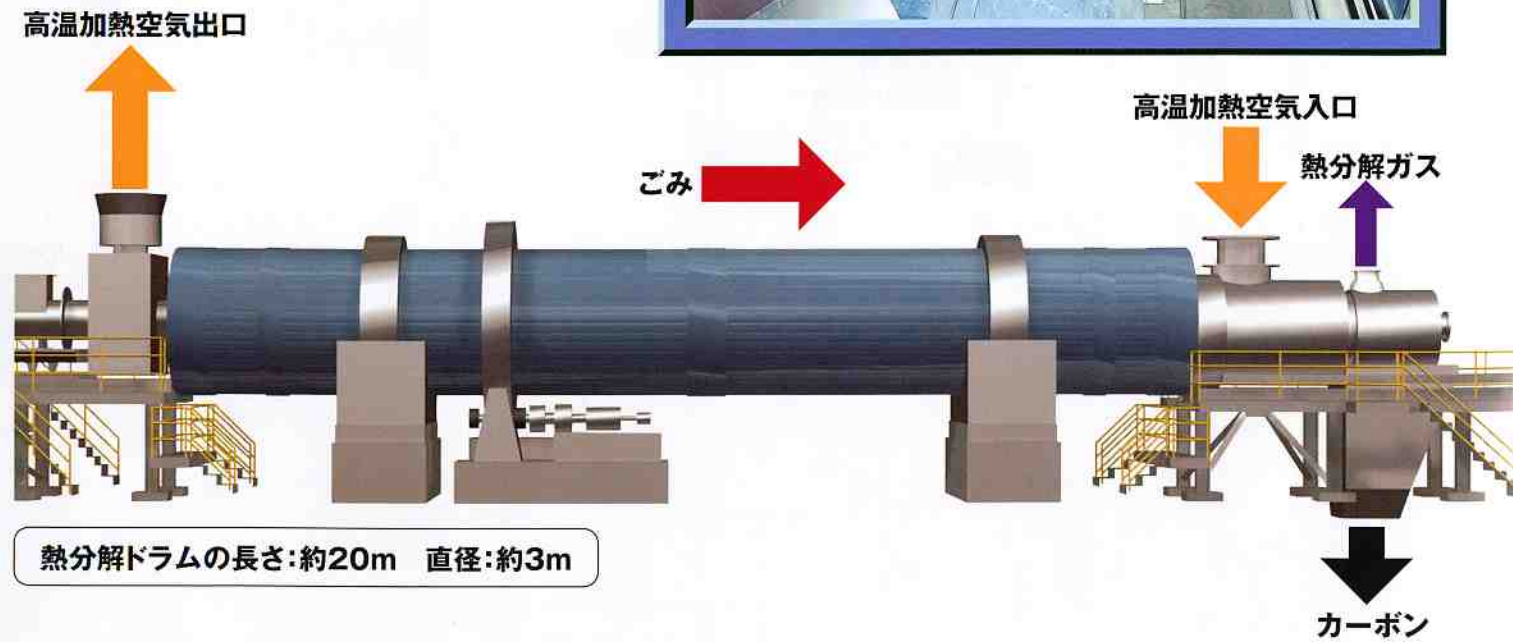


# 熱分解ドラム

多数の加熱管により、  
ごみを熱分解ガスとカーボンに改質する。

熱分解ドラムの内部には多数の加熱管が配置されており、その中に高温加熱空気を流し、ごみを約450℃で間接加熱します。ごみ投入側より出口側が低くなるように傾斜させて設置した熱分解ドラムが回転することにより、ごみはおよそ1時間かけて移動する仕組みになっています。この間、熱をごみ全体にまんべんなく効率的に与える事ができ、均一化したカロリーの熱分解カーボンが生成されます。熱分解ドラムに投入されたごみは、熱分解ガスとカーボンとなり、良質な安定した燃料として燃焼溶融炉へ送られます。また、鉄やアルミなどは有価物として回収する事ができます。



燃焼溶融炉



熱分解ドラムで生成した熱分解ガスとカーボンを熱源として約1300℃で燃焼させ、その際に出た高温の熱を利用して灰分の溶融を行いスラグとして排出します。この燃焼溶融炉は、高い燃焼温度と十分な滞留時間が保持できるため、ダイオキシンなどの発生を大幅に抑制できます。また、ごみを熱分解ドラムで熱分解ガスとカーボンという良質な安定した燃料に改質することによって、ごみ質の変化による影響を受けにくいプロセスとなり、低い空気比での燃焼制御を容易に可能にし、一酸化炭素や窒素酸化物の発生も抑制できます。



1300℃で燃焼させ灰分を溶融し、  
スラグを生成する。

# 燃 焼 溶 融 炉